

Topics 10月1日に地域おこし協力隊2人が着任！さとぶろ。の活動を発信します。

安曇野Tシャツを着てがんばります！

山が好きで山小屋で働いていたこともあり、この里山と関わる仕事は自分にぴったりだと思い応募しました。活動はもちろんです。安曇野で結婚して一軒家を建てることを目標に皆さんと交流していきたいです。

天沼 峻さん(30)

安曇野は人が温かくて気持ちが落ち着きます。

台湾から家族で安曇野に移住してきました。新聞写真記者やウェブライターの経験を生かして、里山の魅力を広く発信して多くの皆さんに里山のことを知ってもらえるように活動していきたいと思っています。

栗原 怜里さん(39)



さとぶろ。学校 カレンダー 5月から11月まで開講されるさとぶろ。学校の半年間を紹介します。

5月 開講式



オリエンテーションや自己紹介を行い、室山のフィールドを見学

6月 第2講



放置されてしまった里山を楽しく整備する団体の活動を体験

7月 第3講



明科地域で活動する団体の活動を講義とワークショップで体験

8月 第4講



烏川溪谷緑地森林エリアで森林整備と伐倒の基礎を学びます

9月 第5講



いよいよ伐倒実習の基本編。安全に倒す基礎を実践

10月 第6講



伐倒実習の応用編。第5講より太い木を協力して伐倒します

11月 最終講



学校を通じて里山のために自分で出来ることを考え、みんなで話します

里山での活動が仲間と広がる

修了生同士でつながりが生まれ、里山整備などの活動に自ら、そして仲間と関わっていく。さとぶろ。学校をきっかけとした活動が広がってきています。

木

が倒れる瞬間に上がる歓声が森に響く――。

里山学びの環プロジェクト

さとぶろ。学校 第5講

里山と関わる知識を学ぶ 生まれる新たなつながり

9月24日、さとぶろ。学校の第5講が国営アルプスあづみの公園内の森林で開かれ7人の受講者が参加しました。さとぶろ。学校は、里山で活動するための基礎技術・知識を身に付け、自ら里山に入り、楽しみながら活動できる仲間を増やそうと、「さとぶろ。」の誕生と共に開講し、本年度10期目となります。

と「追い口」の深さと角度を見極めノコギリを入れていきます。「受け口」の切り込みの深さは木の直径の3分の1で角度は60度。倒す方向がずれないように調整しながら切らなければなりません。受講者は、角度を何度も確認し、苦労しながら真剣なまなざしで実技を行っています。「受け口」と「追い口」が完成し全員でロープを引くと思ひ描いた場所に木が倒れ、真剣な表情が笑顔に変わりました。

子どもの時に遊んでいた里山を子どもたちに残したいという思いで受講している北園由恵さん（48・穂高）は「座学では理解していたことが、実際に切るとなると難しい。里山整備には数学が重要なんだと実感した。さとぶろ。学校で学んだことを家族に自慢するのが楽しみ」と講義を振り返っていました。

受講生は、5月から全7回の日程で里山の魅力や歴史、伐木の基礎から応用などを学びます。この日は、いよいよ伐倒の実践。始めに講師の橋本拓さんが「間伐は光を入れることで下草の成長を促し、森林の機能を高めるために行う。単に邪魔な木を切るのではなく、木材として残したい木を邪魔している木を切る」となど間伐の意義や伐木する木の選び方を森の中で講義しました。そして、いよいよ実践です。まず、一人ずつ切る木を選び、倒す方向を慎重に見極め、ロープをかけて滑車を使い安全に倒す仕掛けをセッ。安全を確保したら「受け口」

■写真 ①慎重に水平の切込みを入れる ②倒れる方向に入らないようにロープを張る ③「受け口」の方向を慎重に調整